



発行所 アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもってみ前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

箴言の知恵は、現代を生きたる私たちにとって、学ぶべきことが多い。私も、かれこれ、2年余りの間、毎月一度、Zoomを使つての「箴言に学ぶ会」を続けている。そのやり方は、至つてシンプルで、10名ほどの参加者と共に、一つの章を輪読し、15分間黙想し、その後、自由に感想を述べ、分かち合いの時を持つというものだ。

もちろんこのやり方は、何もアシュラム運動だけの特別なものではなく、洋の東西を問わず、またプロテスタント、カトリックの教会や集会でも行われている。1970年代に南米ニカラグアで宣教したカトリックのカルデナル神父が、当時権力者によって抑圧されていた農民たちと共に聖書を読み、語り合つた記録が『愛とパンと自由をーソレンチナーメの農民による福音書』としてまとめられているが、これなどまさに、私たちアシュラム運動の目指しているところの「み言葉に聴き、神の声に従う」と重なり合うところが多い。

瞑想

あなたの手に善を行う力があるなら、なすべき相手にそれを拒むな。

箴言3:27

主幹牧師 榎本 恵

もちろん、圧倒的な力によつて搾取され、命の危険にまで晒されてきた中南米の農民たちと、私たちとを単純に同列に語ることはできないだろうが、しかし聖書をただ知識として学ぶのではなく、そのみ言葉に聴き、真摯に歩もうとするその姿勢は、決して遠いものではないと思つている。

ところで、今回選ばれた箴言の言葉「あなたの手に善を行う力があるなら、なすべき相手にそれを拒むな」(箴言3:27)には、どことなくエクスキューズ(言い訳、弁解)が入るように思える。すなわち「もしあなたに余力があるなら、それを使いなさいね、(でもなかったなら、しなくてもいいんだ

よ)」というようなニュアンスだ。確かに、強盗に襲われ、道端に倒れている人を横目で見ながら、向こう側を通つていった祭司やレビ人にも、それを助ける余力も時間もなかったと言いつつすることのできるだろう。しかし、果たして聖書の知恵が語つていることは、そんなことなのだろうか。

そうなのだ。私の手も足も、頭も、そして力も知恵も、これらは全て神から与えられた贈り物なのだ。私自身には、善を行う力など一つもない。いや、むしろ、パウロが言うように、「わたしは自分の望む善は行わず、望まない悪を行なつてゐる」(ロマ7:19)。けれども、こんなどうしようもない私たちの罪を許し、その内に賜物としての善を行う力を備えてくださる。だからこそ、それを出し惜しみするのではなく、与えられた喜びと共に、どんなに微力であつても、拒むことなく使うことこそが求められるのだ。

友よ、続けてルターは、こう言う。「わたしの知恵は愚かな人々のものである。わたしの力は圧迫されている人々のものである。わたしの富は貧しい人々のものである。わたしの善は罪人のものである」と。

さあ、「今、時のある間に、すべての人に対して、特に信仰によつて家族になつた人々に対して、善を行」(ガラテヤ6:10) おうよ。

(『現代聖書註解』より)。

戦後70年の記憶と巡礼

(2015年10月号アシュラム誌より)

榎本 空

今回の沖縄の旅に参加させていただいて、非常に印象に残ったのは、第一日目、那覇空港に到着してすぐその足で向かった糸満糸洲の第二外科壕であった。

すぐ近くのひめゆりの塔に何万人という人々が集まる中、同じ多くの学生が看護師として従軍させられた第二外科壕は、草に覆われ、ひっそりと佇んで

あなたの手に善を行う力があるなら、
なすべき相手にそれを拒むな。 箴言 3：27

イエスは主なり

今年も、沖縄平和巡礼の旅の季節がやってきました。一年に一度ではありますが、沖縄の大切な「慰霊の日」の時期を、沖縄に思いを馳せ旅する。それは、私たちみ言葉に聞き従うことを旨とするアシュラム運動にとっても特別な時となるでしょう。

ぜひ、と一緒に、忘れてはならない戦争の傷跡を訪ね、平和を祈りましょう。

アシュラムセンター主幹牧師 榎本 恵

【期間】

2023年6月21日(水)～24日(土)

【予定】 昼那覇空港集合

21日(水) サマリア人病院精神科デイケア訪問

22日(木) 糸洲第二外科壕跡 慰霊祭

23日(金) 伊江島訪問

24日(土) 沖縄本島観光 午後解散

詳しいことは、次号に。どうか祈りの内に覚えてください。

★飛行機チケットは、各自お取り下さい。



いた。沖縄特有のモ
ワツとした暑さに包ま
れながら、20数名足ら
ずの私たちは軍手をは
め、ほうきやくまでを
手に壕を掃除してい
く。その後、讚美歌を
歌い、般若心経を唱
え、祈る。この体験は
私にとって、とても身
体的であり、同時に靈
的であつた。考えさせられる
ものであつた。

戦後70年を迎え、私
たちはあの戦争を、あ
の沖縄戦をどの
ように記憶する
か、という問題
に直面してい
る。

ともすればこ
の国の為政者の
ように、安易で
自分勝手に歴史
を記憶してしま
う危うさが、い
つも私たちの隣
にはある。

それではどう
するのか。糸洲
の第二外科壕

に、私はそのヒント
が、記憶の出発点が
あつたような気がして
ならない。そこは誰も
訪れない場所である。
沖縄の平和を願ってひ
めゆりの塔を訪れた
人々すらも、足を向け
ない場所。ガジュマ
ルの根が張り巡らさ
れ、今にも忘れ去られ
ようとしている場所。

しかしそこには、死
ぬべきではなかつた
人々の死の記憶があ



2015年、多くの皆様が集められ、巡礼の旅を。写真前列には既に主のみもとに帰られた植村姉、岸本姉も共に。主の平和を祈りつつ、旅は継がれ、続く、続く。

り、命どう宝とい
う人々の生きた思いがあ
る。そのような記憶に
こそ私たちは耳を澄ま
し、そのような思いに
こそ私たちは自分の思
いを合わせるべきなの
だ。果たして神は、土
の中から響くアベルの
呻きを聴いたのではな
かつたか。イエスはエ
ルサレムで石の叫びを
聴いたのではなかつた
か。第二外科壕の岩と
ガジュマルからはどん
な声がかえってくるだ
ろうか。

巡礼とは、安易な観
光ではない。それは過
去に生きた人々の記憶
と意思とを辿ることだ
である。

栄光に包まれ賞賛を
受けた記憶ではなく、
忘れ去られようとして
いる記憶、しかしそれ
を忘れないでおこうと
決意した人々のおも
い、そんな記憶と思
いを掘り起こし、丁寧
に土を払い、それに向

誕生日カード感謝のお便り



拝啓、花の盛りもいつしか過ぎ、葉桜の季節を迎え、晩春の愁い感じる季節になりました。...皆様のお祈りのおかげで今も仕事を続けつつ元気に過ごしております...新年度の行事の多い季節です。ご自愛専一にお過ごしくださいますようお願い申し上げます。
石田正高



恵師と、バーベキュー修行中？の正高兄。

かつて頭を垂れ、手を合わせることである。あの戦争から70年たった今、そこから生まれた人々の記憶と思いは蹂躪され、捨て去られようとしているかに見える。

天に帰られた方々



◆1月21日 植村蓉子姉（8年前沖縄巡礼の旅ご参加 P2写真）

ご子息よりご献金と共にお知らせありました。母の信仰を受け継いで、今後は私宛てにアシュラム誌送付して下さい。センターの働きを覚えて祈らせていただきます、感謝。

◆2月21日 石黒實師（福島・原町聖書教会牧師）

主の御名を賛美いたします。夫、石黒實はガンの闘病中でしたが、2023年2月21日に、平安のうちに天に召されました。満76歳、主にある幸いな生涯でした。今日までの温かいご厚情を心から感謝いたします。

福島県浜通りアシュラムは、コロナでお休みしておりましたが、今年で閉じさせていただきたいと思えます。

これまでの主にあるお交わりを心より感謝いたします。

アシュラムセンターの働きがますます主に祝福されますようにお祈りいたします。

心からの感謝をもって。

石黒素枝



↑震災前の年頭アシュラム。石黒ご夫妻、福島よりご参加。その後、震災、放射能の不安あり、電話にてお伺いしましたところ、教会の皆様、お一人でも、残っておられる限り、避難せず留まるとのことでした。

しかし願わくば、第二外科壕の静けさと追力に、魂と霊に、私たちがこれから進むべき道と希望を見出すことができるように。
（現在、沖縄北部・伊江島在住。）

◆3月23日 浅田和美姉（オリーブの里アシュラム・東京聖書教室）



↑再会を喜ぶ和美姉と和子母。かつてイスラエルの地を共に歩いたお二人。（2022年6月修道場アシュラムにて）

◆4月10日 渡辺玲子姉（保郎師、和子母と世光保育園時代からの同労者）



←20代の頃からのかけがえのない信仰の友。悲しいて、悲しいて、悲しいて...と涙、涙の和子母。写真は、2018年7月、天上の友を憶える日の礼拝。4月に榎本てる子師を天に送ったばかりの和子母の元に駆けつけて下さった。アシュラムセンターには、この時が最後。

和子母の祈り。「池谷治朗君、天国で楽しいお交わりをしていますように。天国でも皆様可愛さされていまして信じています。」

「365日の早天祈祷会の思い出」 榎本 保郎

此の度の祈りの集いのためにはいろいろな備えがなされた。365日の早天祈祷会、二地区の準備祈祷会、十日の祈り、そしていよいよ、明日全国から、多数の兄弟方を迎えてその祈りの集いが持たれるのである(このしゅうぼうが出る時にはすでにこの集いも終わっている事である)。

色々な思い出が去来する中で、365日の早天準備祈祷会について思い出を述べて見たい。思えば365日の早天祈祷会は永かった。何度かへこたれそうになった。特に疲れ切った月曜日の朝の5時半からの早天祈祷会は苦しかった。死に物狂いであった。マンネリズムに悩まされた事もあった。祈りに対する疑いに苦しんだ事もあった。しかしどうやら此の峰によじ登る事が出来た。嬉しさで一杯である。小さい事でも続けるという事は本当に大変な事だという事がわかった。

この苦しい早天を続けることができた事には二つの原因があったと思う。一つは自分の無力さ否罪深さに対する恐れである。本当に不思議な事だが、神は御言をもって屢々危地に立つ私に道を示し、困難を乗り越える力を与えて下さった。感謝で一杯である。もう一つは、祈りを合わせてくれた兄弟姉妹のあった事である。熱心に集ってくれた人、問題の解決を求めて集って来た人、求道心に燃えて集って来た人、今頂上を極めた人が眼下に横たわる道をながめ乍ら感慨にふけるように、私の頭にはそれらの人達の顔が走馬灯の如くにまわりめぐって来る。暗かった顔が明るくなって来、御言の核にふれた喜びが一層映えわたるようになって来た様を見る時、私は眠たさにも勝つ事が出来たのである。これらの人に対して感謝すると共に、又一年続けられる事であるが、誰でもよい、いつでも良い、気のむいた時に皆さんが集ってくれる事を心より願うものである。この祈祷会は一昨年(2021)の10月1日から始めたのだから、通算すると760回である。一日一章読んで来た旧約聖書も今日は雅歌の一章であった。一枚一枚とまくられて行く間に随分厚くなったものである。もう一年やれば大体旧約を読み終える事である。来年の今頃は、どんなに嬉しい事だろう。全く楽しみである。

戦いなければ、勝利なし。兄弟姉妹も来る年も共に頑張ろうではないか。

1962年11月4日



今も引き継がれている、早天祈祷会。各地からのZoom参加者合わせて、20名弱。日・月除く毎朝6時半から、約1時間。聖書1章ずつ、今ヨハネ黙示録の途中。5月中頃には旧約聖書創世記予定。恵師3巡目!



↑春休み、和子母に連なる家族が大集合!(アシュラムの家族は、世界各地に!) 信仰が継がれていきますように!(一瞬起き上がった和子母)



↑北海道より山本光一師、充枝ご夫妻。近江八幡教会伝道師時代、和子母に大変お世話になったそうで、お見舞いに。恵師とも親しく兄弟のよう。そして、仲人!



➡池谷治朗兄のご両親、照雄、寿子ご夫妻が、静岡より車で飛んで?来られました。感極まり涙する和子母。

➡早天祈祷会の後で。北海道から、工藤姉が、Zoom画面を飛び出し、アシュラムセンターに!(写真右から、つこ姉、工藤姉、樋口姉、康子)



主幹牧師の2022年度の振り返りと2023年ビジョン(4)

第48回
年頭アシュラムにて
語られた

この1年間、アシュラムセンターも、これら悪との戦いの連続であったと思います。数の試み、正しさの惑わし、金銭の脅しなどなど、それはいつも私たちの心を不安に陥れ、絶望と諦めを迫ってくるのです。しかし、そのたびごとに、私たちは祈ったのです。私たちは、ただ祈り続けたのです。

この悪魔との戦いの武器について、パウロはこう続けます。「しっかりと立つことができるように、神の武具を身につけなさい。立って、真理を帯びとして腰に締め、正義を胸当てとして着け、平和の福音を告げる準備を履物としなさい。(中略) どのような時にも、“霊”に助けられて祈り、願い求め、すべての聖なる者たちのために、絶えず目を覚まして根気よく祈り続けなさい」(エフェソ6:13-18)と。

そして、最後にパウロはこう付け加えるのです。

「また、わたしが適切な言葉を用いて話し、福音の神秘を大胆に示すことができるように、わたしのためにも祈ってください」(エフェソ6:19)と。

「祈ってください」この言葉こそ、悪魔との戦いを続ける者にとって、最後の拠り所なのです。

2022年を振り返りつつ、私もこう叫びます。どうか、アシュラムセンターのために、そして私のためにも祈ってください。

2023年度のビジョン

見よ、新しいことをわたしは行う。今や、それは芽生えている。あなたたちはそれを悟らないのか。わたしは荒野に道を敷き、砂漠に大河を流れさせる。
イザヤ43:19

「新しい自分が見たいのだ。仕事する。」

河井寛次郎

私の手元には、2008年の第33回年頭アシュラムから、昨年の第47回まで、15回分の「主幹牧師のビジョン」があります。時々それを見直しながら、あの時はこうだったとか、この時はこんなことがあったよな等、15年分の歩みを思い起こしています。

最初の頃は、気が負いが全面に溢れていたり、またいろいろな困難を前にし、もうどうしようもないと意気消沈している時もありました。けれども、どんな時であっても、次の年のあることが、恵みであり救いであると、つくづく思うのです。「あなたがたは、神に喜ばれるためにどのように歩むべきかを、わたしたちから学びました。そして、現にそのように歩んでいます。どうか、その歩みを今後も更に続けてください」(Iテサロニケ4:1)。

パウロはこのように2000年前の、ローマ帝国の地方都市にあった教会あてに、手紙を書き送りました。その勧告は、今もなお生きています。いつの時代も、戦争の時も、大恐慌の時も、革命の時も、未曾有の大災害の時も変わらず、キリスト者たちによって、歩み続けられてきたのです。
(続く)



今年の年頭アシュラム、ビジョン前。
和田モッド姉によるヨガタイム。

あとがき

長く日本を留守にしていたが、無事海外宣教旅行から帰ってきた。台湾でも、ブルジョアでも、またニューヨークでも、多くの方々にお会いでき、本当に感謝であった。主の復活を祝い、イースターも終わり、気がつけば冬枯れしていたシメオンの庭も草花が美しい。コロナも落ち着きを見せ、日本でも各地域アシュラム、またセンター主催のアシュラムが始まる。さあ、扉を開けて共に集おうよ。「見よ、兄弟が共に座っている。なんとこの恵み」(詩133:1)。
久しぶりに会うアシュラムの友、み言葉を、共に分かち合い、この暗閉じ込められていた時から解放されて、共に賛美し、主を褒め称えよう！
(恵)

中止、又はオンラインに変更もあり。
ホームページ、電話等でご確認下さい。
直前の変更の場合あり！

若い方達のアシュラム、恵師名付けて、ユースリトリートアシュラム。いよいよ8月に予定！

お祈りお願い致します。 榎本光太&村上良太郎

5月の聖書教室など

【主な問い合わせ先】
0748-33-4030
アシュラムセンター

2(火)	Zoom聖書教室 (Zoom AM10:30、PM7:30)
8(月)	福岡聖書教室 (博多クリオコートホテル PM1:30)
13(土)	加古川祈りの家 (小林清子姉宅 PM1:00) 0794-23-3004
13(土)	聖書と学ぶ会 (Zoom PM8:00)
15(月)	箴言に学ぶ会 (Zoom AM10:30、PM7:30)
16(火)	大阪聖書教室 (大阪クリスチャンセンター AM10:30)
17(水)	みんなのカフェちいろは聖書入門講座 (京都・伏見区深草 PM1:30)
19(金)	センター聖書教室 (アシュラムセンター AM11:00)
21(日)	ちいろは牧師記念チャペルタ礼拝 (PM5:00)
22(月)	静岡聖書教室 (旧・英和女学院宣教師館 AM10:00、PM1:30)
23(火)	東京聖書教室 (御茶ノ水クリスチャンセンター 4F AM10:30)
23(火)	しみじみする会 (桜美林大学 荊冠堂チャペル PM2:30)
24(水)	美しい足の会 (Zoom AM10:30、PM7:30)
6/2(金)	阪神ミニアシュラム (神戸聖愛教会 PM1:00)

5月のアシュラムなど

3(火) 5(金)	第31回 盛岡秋田アシュラム (癒しの宿 ロドム) 奉仕者 榎本 恵師	090-8841-4228 角谷晋次師
18(木) 20(土)	2023年 修道場アシュラム 奉仕者 榎本 恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
20(土)	第21回 愛知一日アシュラム (日本バプテスト連盟名古屋キリスト教会) 奉仕者 溝口 勝幸師	0562-47-0528 溝口勝幸師

6月のアシュラム予定

17(土)	新潟一日アシュラム (日本キリスト教団 新潟教会) 奉仕者 榎本 恵師	0250-23-2697 吉澤昭男師
19(月) 21(水)	第47回 教職アシュラム (八王子市 大学セミナーハウス) 主奉仕者 小山田 格師	048-789-1325 加々美要師
21(水) 24(土)	沖縄巡礼の旅 奉仕者 榎本 恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
30(金)	第28回 三重アシュラム (津ルーテル教会) 奉仕者 榎本 恵師 空兄	080-5122-6230 岡部知幸子姉 高志洋美姉

7月以降のアシュラム予定

7月8(土)	第4回 四国一日アシュラム
7月17(月)	第26回 福岡一日アシュラム
7月20(木)~22(土)	常任運営委員のための修道場アシュラム
7月22(土)	天上の友を憶える日の礼拝
8月	ユースリトリートアシュラム (New!)
9月28(木)~29(金)	第11回 日光オリブの里アシュラム
10月12(木)~14(土)	加太アシュラム
10月30(月)~11月1(火)	第18回 国際正義・平和アシュラム in 新潟
11月1(火)~3(木)	第48回 京浜アシュラム

みことば



シメオン庭の花 モミジ

日本基督教団仙台宮城野教会牧師
アシュラムセンター協力牧師
齋藤 篤

神が私たちに与えてくださったのは、
臆病の霊ではなく、力と愛と思慮の霊だからです。
テモテへの手紙二一章7節

実は、私にとって恐怖に感じていることが現在いくつもあります。そのどれもが、解決するのが本当に難しいと感じている人間関係についての悩みと恐れです。そんなことでよくよしていたってしょうがない。神様が何とかしてくださるさ。そう思いながら夜の眠りに就いても、朝目覚めると、そのことがふっと頭をもたげます。

先日、こどもさんびかの「きょうだいげんかをするときは」という曲を聞いていました。その曲のなかで「かみさま かみさま かみさま そのわけおしえてください」という歌詞があります。人間関係のもつれのようなものがあって、このもつれから解放されたいと思うときに、しかしどうしたらよいか分からない。まさに「神様、教えてください」と祈りたくなるのです。

神が私たちのただ中におられる。ともにおられる。私たちの背後に、私たちの目前に、そして傍らに、そして底辺から私たちを支え、天上からもすべてをご覧になられている。つまり全方位から私たちを見てくださる方が、究極的に私たちのただ中におられるのだということ、私たちに伝え続けてくださっているのだと。

私自身、そのような聖書の言葉に励まされます。しかし、すぐに忘れてしまいます。恐怖、つまり自分自身の臆病さというものに取り囲まれて、そのことでいっぱいになる私自身があるのです。だからこそ、こういう聖書の言葉を繰り返し聴き続けることのできる幸いというものをおみしめたいのです。「力と愛と思慮の霊」という言葉に惹かれます。神がご自分の力をもって私たちを愛し、その愛には十分な思慮がともなっているのだと。それがキリストの愛なのであって、この愛を私自身受け取りたいし、受けとることで少しでも臆病から解放されて、キリストの愛で人びとに向き合いたい。そんなことを願わされたのでした。



ラビリンスを歩かせて下さい。とのご依頼がポツポツとあり感謝です。皆様もいかがですか？